

レンジフード取付説明書

取扱説明書・取付説明書は必ずお使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

● 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けをおこなってください。ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他人の危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをするおそれがあることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

- 警告:** 人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
- 注意:** 人が傷害を負う可能性及び物的損害の発生が想定される内容。

警告

- 修理技術者以外の人には、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
- 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口(給気口)により十分な給気されることを確認してください
- 排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起すおそれがあります
- 排気工事をされる場合は建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラスタ網など)と接触しないよう取り付けください
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 交流100V以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けください
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります

注意

- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実に取り付けください
落下によりけがをするおそれがあります
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります
- ファンや部品の取り付けは確実にすること
落下によりけがをするおそれがあります
- 取り付けの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- 浴室など湿気が多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
感電および故障の原因になります

取り付け上のお願

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
・大工工事(設置のための下地工事等)
・配線工事(コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等)
・管工事(ダクト配管及びレンジフードからのダクト接続等)
・流通業者(販売店)を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を別としておこなってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は400ml/h時50Pa以下のものをご使用ください。
防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- ダクトの不燃処理について
ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
● 施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指図書」・「検査要領書」に従ってください。
- 製品は調理機器の真上に取り付けください。
なお、製品取付高さは、調理機器の真上80cm以上になるようにしてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し本体内部に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。

製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。

- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいじりしるく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフード取り付け面の木部に、取り付け用座付ねじが確実に届くことを確認してください。
本体の取り付け用座付ねじは、45mmの長さのものが同梱されていますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取り付け用座付ねじが確実に木部に届くことを確認してください。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。
また、横方50cm以上離して取り付けしてください。
湯沸器の真上を高熱になるため故障の原因になります。
- 建物が閉塞されている場合は、約400ml程度の空気取入口を設けてください。
- 部屋の中央で料理される場合は、油煙が捕集されませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。

取り付け前の調査と準備

警告

- 修理技術者以外の人には、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラスタ網など)と接触しないよう取り付けください
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください
- 排気工事をされる場合は建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります

注意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下により、けがをするおそれがあります
- 取り付けの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
火災・故障の原因になります

1. 取付面の強度確認
……製品を支える強さが必要です。

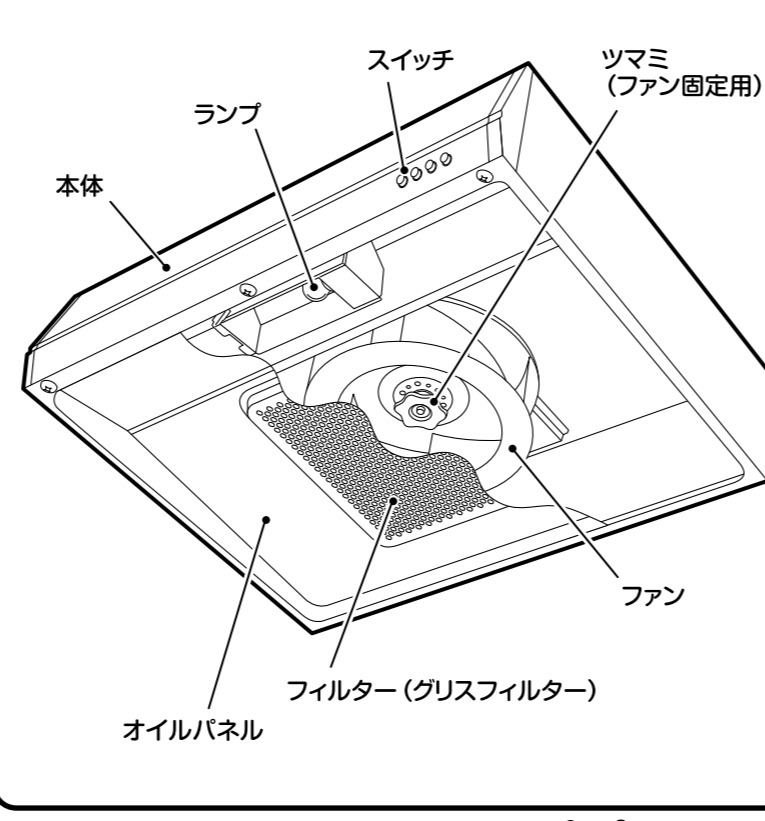
600幅	製品質量 10.5kg
750幅	製品質量 12.5kg

2. 別売品の準備
排気工事に応じた別売品の準備が事前に必要です。

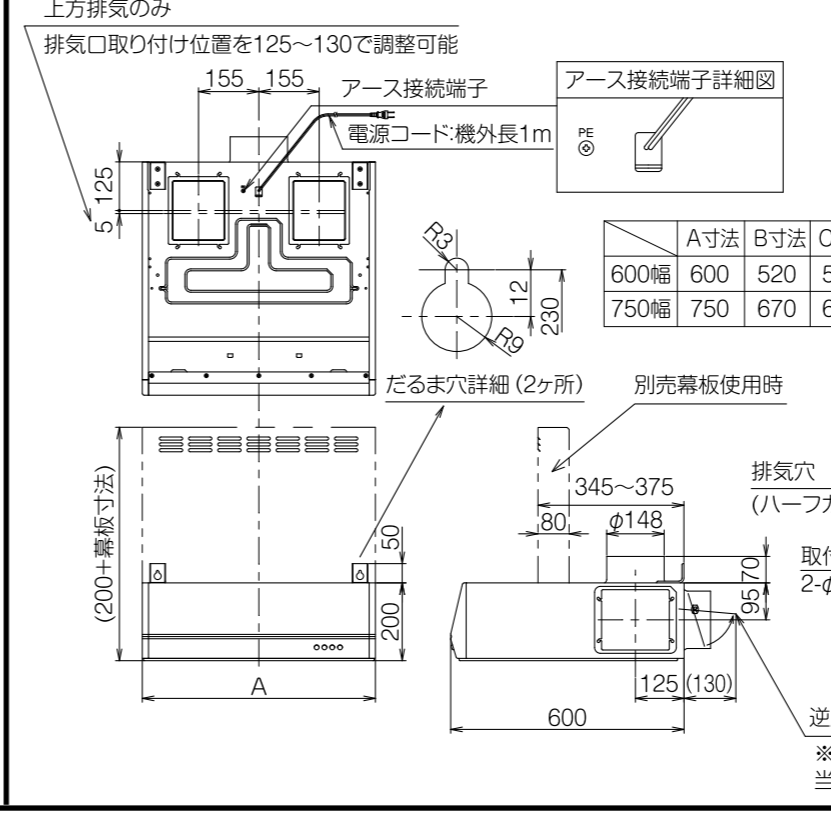
3. 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は調理機器の上から製品の下端まで80cm以上です。
※火災予防条例では、クリスフィルター・の下端が調理機器の真上80cm以上必要となっています。

4. 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。(交流・単相 100V)
コンセントは、JIS C 8303 2極差込接続器(15A125V)をご使用ください。

各部のなまえ



製品寸法図



付属品(本体内部に同梱)

品名	略図	用途
排気口		本体と排気ダクトの接続に使用します。逆風防止シャッター付きです。
排気口取付金具		本体と排気口の接続に使用します。
蝶ネット(M4)		排気口の取り付けに使用します。
ワッシャー(φ18)		排気口とダクトのすきまをふさぐのに使用します。
ソフトテープ(長)		排気口とダクトのすきまをふさぐのに使用します。
ソフトテープ(短)		排気口とダクトのすきまをふさぐのに使用します。
幕板取付金具		別売の幕板を取り付ける場合に使用します。
蝶ねじ(M4)		2本
吊金具		2個
座付ねじ		φ5.1×45 4本

取り付けかた

注意

- 取り付けの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

お願い

- 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。
- 本体上面に貼られているシールは、はがさないでください。

1. 本体の準備

(1) オイルパネルをはずします。
オイルパネル取付ねじ3ヶ所をゆるめ、上に持ち上げながら本体の引掛け部からはずします。

(2) 付属品を取り出します。

(3) 右上隅の付属品一覧により不足がないか確認します。

(4) ファンをはずします。
ファンを軽く手で押さえ、ツマミを「ゆるめる」(時計回り)の方向に回してはずした後、ファンを取り出します。

お願い

- ファンを変形させないよう取り扱いに注意してください。

2. 排気方向の決定

警告

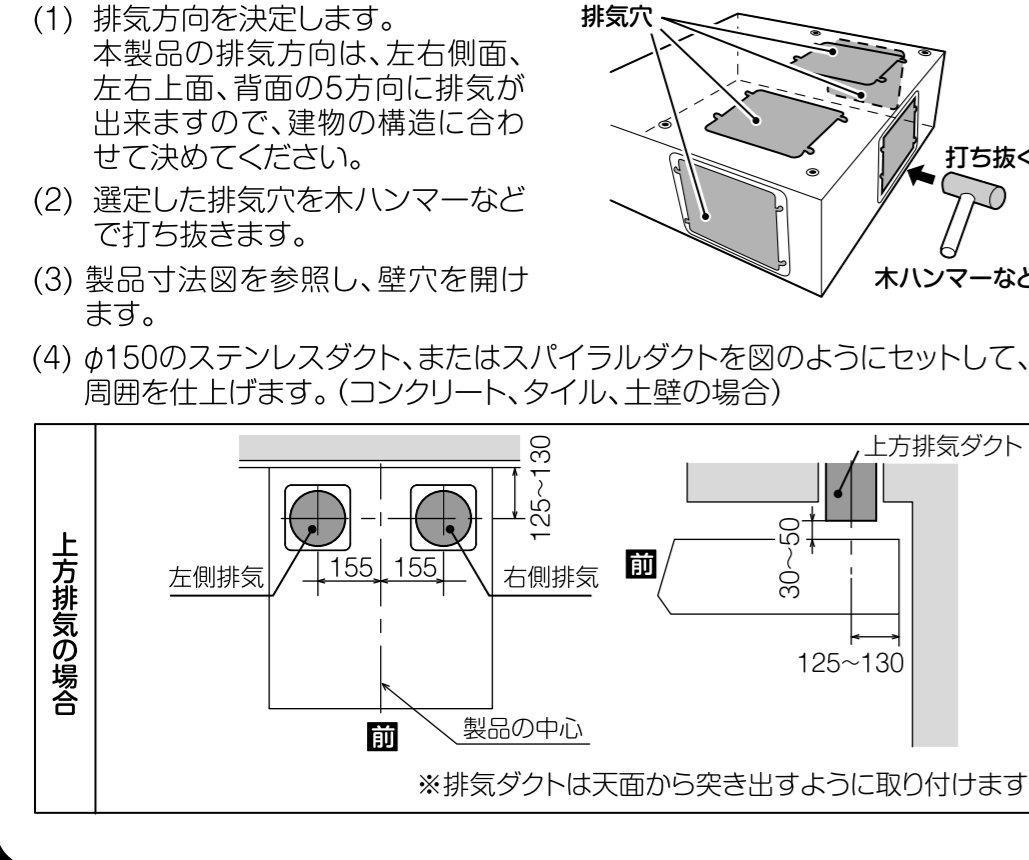
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けください
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- 本体とダクトは、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください

(1) 排気方向を決定します。
本製品の排気方向は、左右側面、左右上面、背面の5方向に排気が出てきますので、建物の構造に合わせて決めてください。

(2) 選定した排気穴を木ハンマーなどで打ち抜きます。

(3) 製品寸法図を参照し、壁穴を開けます。

(4) φ150のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを壁にセットして、周囲を仕上ります。(コンクリート、タイル、土壁の場合)



3. 排気用部品の準備

■側方・後方排気の場合
排気口は必ず本体側から取り付けます。

(1) ソフトテープ(長・短)を排気口に図のように貼り付けます。
ソフトテープ(長)は穴の内側に合わせて貼り付けてください。

(2) 排気口取付金具2個を本体の排気穴に取り付けます。
排気口取付金具のボルトを排気穴の丸穴に本体側より差し込んだ後、排気穴の端面をはさみ込むように折り曲げます。

■上方排気の場合
排気口は必ず本体外側から取り付けます。

(1) ソフトテープ(長・短)を排気口に図のように貼り付けます。
ソフトテープ(長)は排気口の外側に沿って貼り付けてください。

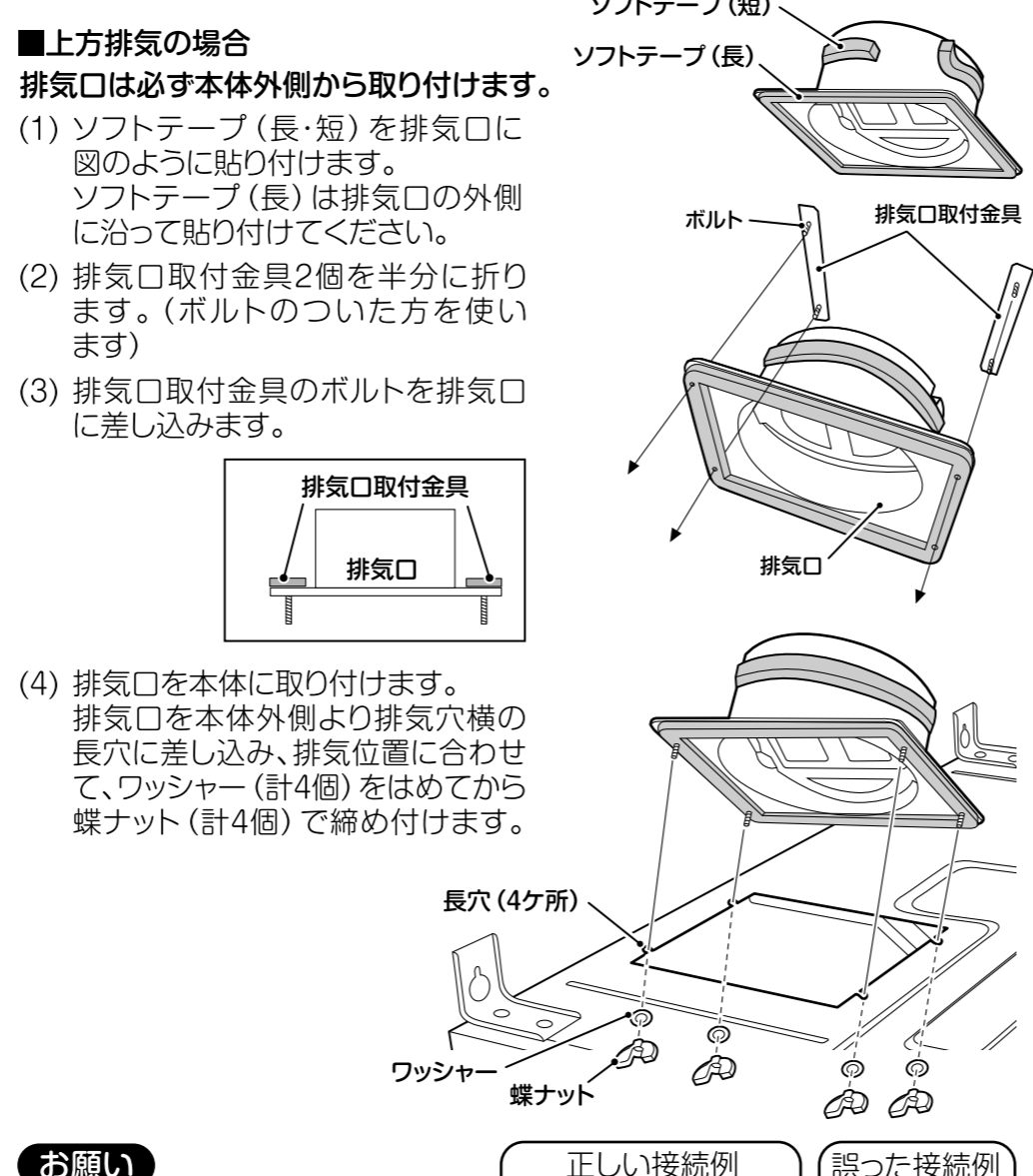
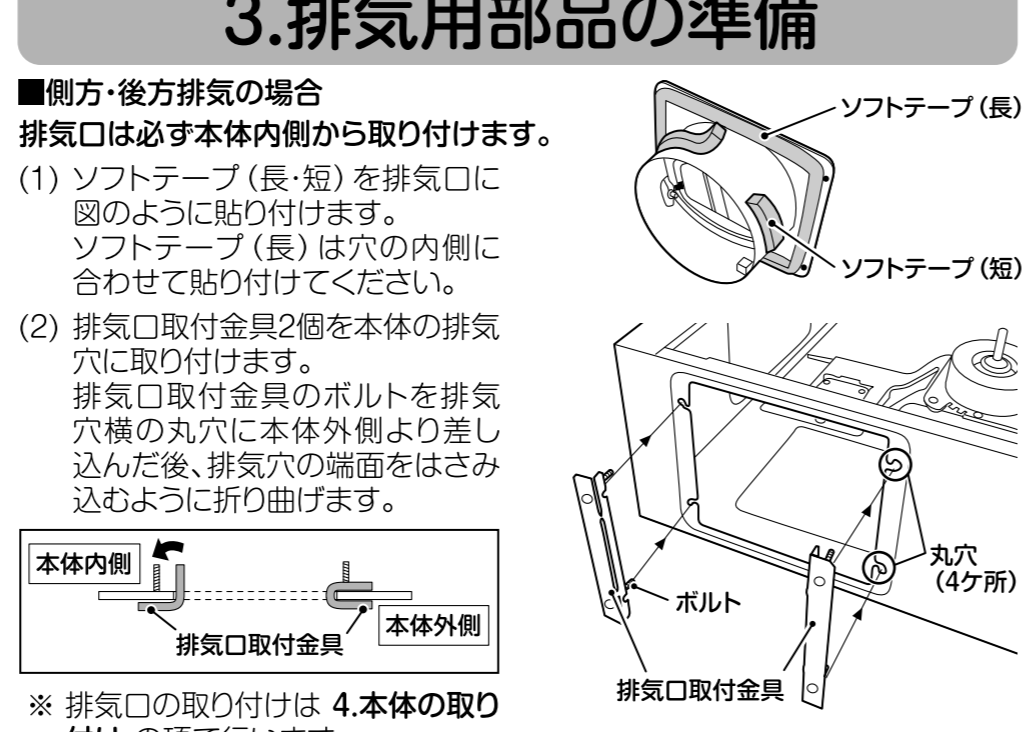
(2) 排気口取付金具2個を半分に折ります。(ボルトのついた方を使います)

(3) 排気口取付金具のボルトを排気口に差し込みます。

(4) 排気口を本体に取り付けます。
排気口を本体外側より排気穴横の長穴に差し込み、排気位置に合わせて、ワッシャー(計4個)をはめてから蝶ネット(計4個)で締め付けます。

お願い

- 上方排気の場合、排気口とダクトの接続の際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面(本体上面等)が変形し、排気漏れが発生してしまう場合があります。排気漏れ確認の際は、ダクトと接続後は試運転(強運転)をおこなってください。漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等(現地手配)で漏風防止処置をおこなってください。



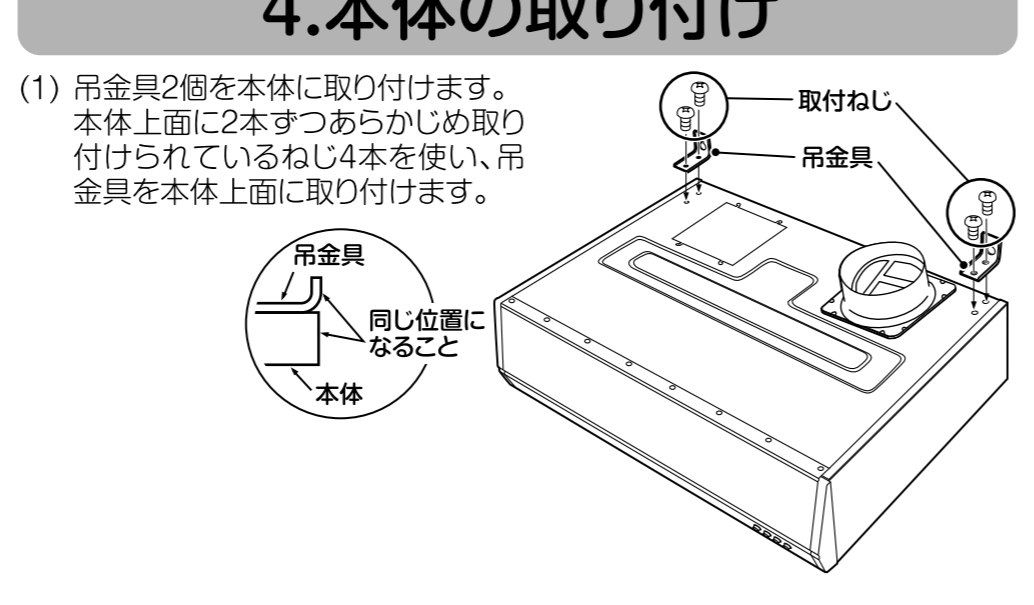
4. 本体の取り付け

(1) 吊金具2個を本体に取り付けます。
本体上面に2本ずつあらかじめ取り付けられているねじ4本を使い、吊金具を本体上面に取り付けます。

(2) 吊金具2個を本体に取り付けます。
本体上面に2本ずつあらかじめ取り付けられているねじ4本を使い、吊金具を本体上面に取り付けます。

お願い

- 吊金具の取り付け位置は、必ず本体上面のねじ位置にしてください。



(2) だるま穴用座付ねじ2本を壁面にねじ込みます。
だるま穴位置(左右各1ヶ所)に座付ねじ(φ5.1×45)を壁面とのすきま5mmまで締め付けます。

(3) 本体を取り付けます。
(2)で取り付けただるま穴用座付ねじに本体を引っ掛けてあと、しっかりと締め付けます。

お願い

- 上方排気の場合はダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

(4) 本体を座付ねじ(φ5.1×45)2本でしっかりと締め付けて固定します。

(5) 側方・後方排気の場合は排気口を本体に取り付けます。
3.排気用部品の準備の項で準備した排気口を本体側より排気口取付金具のボルトに差し込み、ワッシャー(計4個)をはめてから蝶ネット(計4個)で締め付けます。

お願い

- シャッターの開く向きに注意して排気口を取り付けてください。

5. ダクトと排気用部品の接続

お願い

- ドリリングタッピンなど、排気口を固定する場合は、シャッターにねじが当たらないように図のドリリングタッピンねじ使用範囲内に固定してください。

■上方排気の場合
風漏れ防止のテープ(アルミテープ)をおこないます。

排気口設置面の漏風確認のお願い

排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面(本体上面等)が変形し、排気漏れが発生してしまう場合があります。排気漏れ確認の際は、ダクトと接続後は試運転(強運転)をおこなってください。漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等(現地手配)で漏風防止処置をおこなってください。

6. 電気配線

警告

- 修理技術者以外の人には、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

お願い

- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
- 交流100V以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実にすること
誤った配線工事は感電や火災の原因になります

(1) アース(D種接地工事)を取り付けます。
※アース線は取付作業側にて手配します。

(2) 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願い

- 電源は専用のコンセント(2極差込接続器 15A 125V)およびブレーカーを設けてください。
- コンセントは電源コードの長さを考慮して設置してください。

7. 幕板を取り付ける場合

(1) 幕板取付金具2個を本体に取り付けます。
幕板取付金具のツマミを本体上面のくぼみに入れ、本体側から蝶ねじ1本(左右計2本)を仮固定します。
幕板を取り付けた後、最後まで締め付けてください。

(2) 幕板を本体と幕板取付金具の間に差し込みます。

(3) 幕板の取り付け位置を決め、蝶ねじを締め付けて固定します。

8. 組み立て

(1) ファンを取り付けます。
ファン裏面の溝がモーター部のシャフトピンに合うように差し込み、ツマミを「止める」(逆時計回り)の方向に回して締め付けます。

お願い

- ファン裏面の溝がシャフトピンに合うように確実に差し込んでください。(異常音や故障の原因になります)

(2) オイルパネルを取り付けます。
オイルパネル後方の引掛け部を本体に引っ掛けてからオイルパネルを閉じ、手で支えながらオイルパネル取付ねじ3ヶ所を締め付けます。

お願い

- オイルパネルを閉じる際に本体の配線がはさまらないことを確認してください。

9. 試運転

■分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。

■運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。

■異常な騒音、振動がないことを確認してください。

■屋外の排気出口から排気されていることを確認してください。

■取り付けまたは各種工事に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますのでご注意ください。

10. お客様への説明

■取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。

■取扱説明書と共に、この取扱説明書を必ずお客様へお渡しください。

製造元: **-FUJIOH-** 富士工業株式会社
〒252-0206 相模原市中央区湘野2丁目1番9号
TEL 042 (768) 3754 (営業部)